

Title	手塚寿郎著 ゴツセン研究
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.11 (1920. 11) ,p.1646(144)- 1649(147)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19201101-0144

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

き途はない、社會主義運動の論據は立たないの
 である」(頁一五六)の結論に到達したるのであ
 る、次に著者は社會主義者の經濟學に對する
 最大貢獻の一として Rodbertus の資本團體と資
 本財産との區別、Marx 及 Lassalle の資本の歴
 史的觀念の力説を以てせられ、最後に附論とし
 て「Rodbertus の勞働價值説と平均利潤率の問
 題」を究明せられてゐるのである。

之れを要するに崇高なる著者の人格と、清溪
 の藻を敷ふるが如き透徹せる其思索とは遺憾な
 く本著によつて發揮せられ、我等をして衷心よ
 り感謝の念を捧げしむるものである、妄評多罪
 (阿部秀助)

手塚壽郎著 「ゴツセン研究」

定價貳圓五拾錢
 同文館發行

Hermann Heinrich Gossen の著「人間交通の發

展並に是れより生ずる人間行爲の法則」が公に
 せられたるは一八五四年の事なれども、著者の
 名が稍々廣く知らるゝに至りしは恐らく Jevons
 がその「經濟學理論」第三版(一八七九年)の
 序文に於て數學的經濟學の先驅者として其學說
 の一端を紹介したるに始まるものなるべし。其
 後奧太利派の諸學者輩出してより、Gossen を口
 にするもの漸く多く、享樂遞減、並に限界享樂
 均等の二法則は(手塚氏の譯に従へば)同一の
 享樂を間斷なく實行するときは享樂の大きは漸
 次減少し、遂に飽滿するに至る。「諸種の享樂
 に就き選擇をなし得れども其らの總てを享樂し
 盡す時間を有せざる者にして最大量の享樂を得
 んとすれば各個の享樂の一部分宛を收得するを
 要し、而して各享樂の終止時點に於ける各享樂
 量を均等ならしむるを要す。」は共に Gossen の
 名を以て呼ばるゝに至れり。我邦に Gossen が紹

介せられたるは何時の頃なりしか。單にその書
 名の擧げらるゝとはこれより先きにもありたれ
 ども其内容に言及せられたるは恐らく明治四十
 二年福田博士が「經濟學講義」(四〇〇)の内に此
 書の數節を引用したるを以て嚆矢となすべし。
 然れども其後 Gossen を論ずるものは甚だ少な
 く(山口正太郎氏はその少數なる研究者の一人
 なり)一八八九年伯林の書肆 Passer の翻刻に
 係る版本は入手決して困難ならざるに拘らず
 (同書肆最近の目録によれば價七馬克五拾片な
 り)その廣く我邦に行はれざるは事の主なる原
 因此書の難解に在りしなるべし。十九世紀中に
 現はれたる最も獨創に富める經濟學書を數ふる
 ものは必ず Gossen を逸す可からず。然れども
 十五世紀中に於ける最も難解の書を數ふるもの
 も亦此人を逸すべからざるなり。原本は細字二
 百八十有餘頁、目的なく、章節の區別なきに加

ふるに在來の慣用を襲踏せざる新術語の頻りに
 用ゐらるゝ事は讀者の疲勞を甚だしからしめ、
 更に加ふるに論の要處に到る毎に必ず援用せら
 るゝ無數の數學式は一見無素養者の膽を寒から
 しむるに足れり。然るに今手塚氏はたゞにこの
 難解の書の邦譯を試みたるのみならず、「ペーコ
 ンがクルノー」を英譯するに當り幾多の數學的運
 算の誤謬を見出したやうに權威ある書物にも數
 學的運算の誤謬なきを保し難きが故に、……ゴ
 センが省略した一切の運算を行つて見た」而し
 て「」内に註解を加へ、「余は此註解の精確なる
 を信するが故に讀者は自ら筆を採りて試筆を行
 ふ必要無かるべしと思ふ」と記せり。これ實に
 進んで他人の回避せんと欲する衝に當るものに
 あらずや、評者は手塚氏の意氣と苦心とを多と
 せざることを能はざるなり。

本書中最も重要なるは享樂増減、享樂増減よ

り生ずる三種の財の價值、(三種の財とは今日の語を以て云へば享樂財、補充財、生産財の三種にして Gossen はこれを第一種、第二種及び第三種對象と名づく) 勞働の快不快の交代及びその増減、交換の發生及びその限界點等に關する理論なるべく之を取て其根本の着眼を同ふするも説明方法殊に圖形並びに數學式に於て甚だ趣を異にする。Jevons と比較するは最も興味ある業なり。然れ共是以外にも貨幣、地代、奢侈と必要との區別、土地國有等の諸問題に關する Gossen の説には注目すべき獨特の見解甚だ多し。所詮 Gossen は後世經濟學說史家の看過す可からざる一奇才なり。手塚氏はたゞに難解なる書の翻譯を試みられたるのみならず、また實に翻譯に値する書を翻譯せられたり。而してこれ翻譯上に於ける第一義の事項たるなり。

本書は Gossen の抄譯なりと云ふ。評者は今

原文と對照するの違なかりしを以て、原書の如何なる部分が省略せられたるか云ふ能はずと雖も、數學方式を除くの外本文に於て甚だしき難解の章句に遭はざりしを以て見れば抜抄の方法は當を得たるものと判斷せざる可からず。たゞ目的と云ふが如き譯語(原語は zweckmässige ならん)の少しく耳目に慣れざると、説明圖形の中に稍々不明瞭なるものと位置の顛倒せるかと思はるるものと(例へば第五、六、二一、二四、六二頁等)あるは小疵なれども遺憾なり。

Gossen の思想は埃太利派の諸學者に繼承せらるれども、最近に於て最も著しく此人の影響を受け、Gossen 第二法則(限界享樂均等法則)より得たる一個の限界收益均等の法則 *das Gesetz des Ausgleichs der Grenzerträge* を以て經濟學全系統の改造を行はんとしつゝあるは獨人 Robert Liefmann なり。此人今や十年來雜誌論文

にて發表したる新學說を精鍊して「經濟學原理」(Grundsätze der Volkswirtschaftslehre. I. Band: Grundlagen der Wirtschaft. Stuttgart und Berlin 1917) を大成せんとす。手塚氏の著はまた時宜の宜しきを得たるものと云はざる可からざるなり。(小泉信三)

◎謹告

謹啓寒氣相催し候處愈々御清適の段奉賀候陳は豫て御愛讀を賜り居候本誌本月號より左の如く定價改正仕り候に付ては今後共一層御高庇賜り度此段謹告候也 敬具

壹冊定價金五拾錢 郵税壹錢五厘

大正九年十一月一日

三田學會雜誌發行所

各位